

パネルディスカッションは、コーディネーターに室蘭民報社の工藤孝太郎事務取締役、パネリストに西胆振の6人の首長、経済産業界から(有)ゲズント農場の勝木豊代表取締役、登別温泉旅館組合の岩井重憲組合長、(株)荏原環境テクノ北海道の村上孝志代表取締役、釧路公立大学の小磯修二教授の10人で、西胆振の将来についてさまざまな議論を行いました。その内容の一部を紹介します。

大きな旗印となる  
メリットを見せてほしい



(有)ゲズント農場  
勝木 豊さん

養豚場を経営していますが、規模を拡大をしたときには、古い考え方を捨てるのが重要でした。合併も、地域のエゴを持ち出したらできません。合併にはリスクがあると思いますが、大きな旗印となるメリットを見せてほしいです。

ほかの業界でも  
もっと議論できる場を



登別温泉旅館組合  
岩井 重憲さん

すでに観光の中では、広域化が始

まっております、お客さまも非常に多様化している中で、地域がそれぞれの特色を生かしながら、補完し合う時代になってきています。例えば、登別温泉はお湯に磨きをかけ、洞爺湖温泉は景観と洞爺湖を生かしながら、お互いの良きに磨きをかけ、その中で連携を図っていくことがこれから必要になってきます。

行政自体が合併するのはいろんな諸事情があり難しいとは思いますが、業界間ではそれほど難しくありません。ほかの業界でも現状をお互いに理解し合い、先に向けて話ができる場があればいいと思います。

時代に遅れず合併の推進を



(株)荏原環境テクノ北海道  
村上 孝志さん

機械設計の仕事をしています、昔は手で書いた図面を航空便を使ってやりとりしていた作業が、今は、コンピューターで図面を作成し、オ

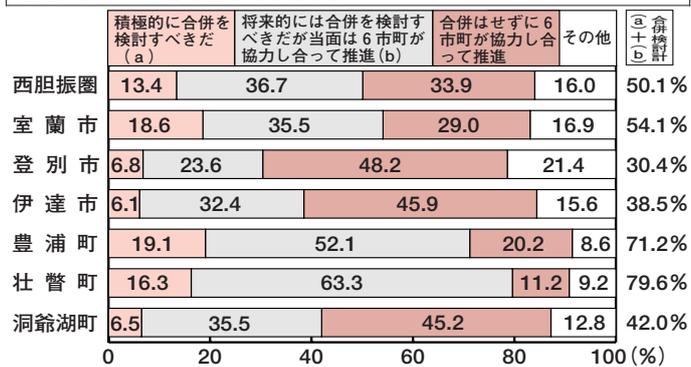
ンラインでやりとりできるようになるなど、生活圏は大きく広がっています。合併を進めるべきだと感じますし、アンケート結果ほど若い人は合併を危惧していないのではないのでしょうか。

住まいと遊びは室蘭、仕事は東京や世界中、今はそういう時代です。財政が非常に悪化している時代に、行政の効率化が必要だと思います。交通状況が良くなった時代に、それに対応する広域合併が考えられるのではないのでしょうか。通信網を整備できれば、もっと西胆振は発展できると思います。

住民意向調査結果

今後、西胆振地域の広域的な行政を推進する上で最も望ましい行政形態

「合併を検討すべき」との回答は、将来的な検討も含めると50.1%ですが、地域によって大きな差があります。



西胆振圏の現況

◎西胆振圏とは

西胆振圏とは、室蘭市、登別市、伊達市、豊浦町、壮瞥町、洞爺湖町の6市町からなります。



◎人口と面積の道内順位

順位	都市名	人口(人)
1	札幌市	1,880,863
2	旭川市	355,004
3	函館市	294,264
4	西胆振圏	208,160
5	釧路市	190,478
6	苫小牧市	172,758
7	帯広市	170,580
8	小樽市	142,161
	北海道	5,627,737

順位	都市名	面積(Km <sup>2</sup> )
1	北見市	1,427.56
2	足寄市	1,408.09
3	釧路市	1,362.75
4	西胆振圏	1,356.16
5	遠軽町	1,332.32
6	別海町	1,320.22
7	新ひだか町	1,147.75
8	札幌市	1,121.12
	北海道	83,456.20

(平成17年国勢調査)

(平成17年国勢調査)